

国際シンポジウム／ワークショップ

歓迎挨拶

ムハンマド・ディルハムシャー(シアクアラ大学津波防災研究センター長)

Muhammad Dirhamsyah (Direktur, TDMRC, Universitas Syiah Kuala)



本日はみなさまお越しくささいまして、ありがとうございます。アチェ州政府を代表して、アブドゥル・ラフマン・ルビス州知事代理および関係諸部局からお越しいただいています。そのほかにもさまざまな機関からお越しいただいています。ありがとうございます。

2004年12月26日にアチェで津波が発生して以降、さまざまなことがありました。津波やその後の復興に関する情報もたくさんあり、それをどのようにまとめるかが課題になっています。また、日本でも2011年3月11日に大きな地震があったことは、みなさまご承知のとおりです。

本日、京都大学地域研究統合情報センターとシアクアラ大学津波防災研究センターの共催により、国際シンポジウム「災害遺産と創造的復興——地域情報学の知見を活用して」を開催します。開催にあたっては、JST-JICA地球規模課題対応国際科学技術協力事業「インドネシアにおける地震火山の総合防災策」をはじめ、さまざまな機関からご支援をいただいています。本日より12月26日まで、地域情報学を活用してどのように地域の発展を進めていくのかについて考えたいと思います。

本日お越しの諸機関のみなさまは、それぞれ情報を扱っていると思いますが、その情報をぜひ開かれたかたちで利用できるようにご協力をお願いしたいと思います。情報をそれぞれのニーズに応じて使われるかたちによってこそ、アチェを科学や文化、歴史、さまざまな分野において開かれた場所にすると思います。本日のシンポジウム・ワークショップが、その大きなきっかけとなることを願っています。